

## 「グローバル・コモンズ（サイバー空間、宇宙、北極海）における日米同盟の新しい課題」

### 【研究概要】

技術革新や国際社会の構造変化により、安全保障空間が大きく変容を遂げつつある。サイバー空間は、今や軍事オペレーションと経済活動の双方にとって不可欠の領域となっている一方で、国家及び犯罪グループによる攻撃の脅威にさらされている。また、宇宙空間は、米ソ冷戦時代は2つの超大国が軍事利用を独占していたが、近年は中国の台頭が著しい。更に、近年の地球温暖化の進行は、従来「未到の海域」であった北極海での軍事及び経済の両面にわたる活動を現実の可能性としつつある。これらの空間は、世界の繁栄と安全のために必要不可欠な公共圏である「グローバル・コモンズ」としての重要性を増してきており、これらの安全を確保し、脅威を防ぎ、国際的なガバナンスを確立することが益々喫緊の課題となってきたという点で、共通する性格を有している。

日米同盟は、過去50年以上の長きにわたって日米の安全、更には世界の平和と安定の確保に貢献してきたが、グローバル・コモンズをめぐる戦略環境の変化に伴い、上記のような新たな課題に直面している。日本は、技術立国としての高い先端技術、宇宙開発における日米協力の長い蓄積、対潜能力を含む海軍力等、他国の追隨を許さない日本の強みを持っているが、グローバル・コモンズを安全保障の観点からとらえることは最近になって行われ始めてきている状況である。一方、グローバル・コモンズの安全を確保し、世界の繁栄に貢献することは、日米共通の責務であると共に、日本が積極的に役割を果たすべき課題である。なお、日本が果たすべき独自の役割を検討するにあたって、「独自の役割」を日本が「独力で」果たす役割と狭義に解する必要はない。日米の有する卓越した能力を組み合わせ、その中で日本が固有の能力を発揮するという意味での「独自の」役割を果たすことにより、日本の役割の効果を増幅し、その効果を最大化できるだろう。

本事業の目的は、サイバー空間、宇宙空間、北極海というグローバル・コモンズの現状を分析し、これらコモンズの安全を確保するための日米同盟の役割、その中で日本がその強みを活かしつつ果たすべき役割を検討し、とるべき施策について政策提言を行うことである。政策提言には、日米協力のあり方、その中での日米の役割分担、日本の強み（技術力、経済力、外交・国際的な影響力、海上自衛隊の能力等）の活かし方、これらコモンズに係るガバナンス構築に向けた国際協力と日本の役割・日米連携のあり方等が含まれる。また、日米協力を検討するにあたっては、政府間のみならず、産官学をあわせた総合的な日本の強みを活かした施策を考える。

### 【研究プロジェクトメンバー】

#### 研究会主査：

星野 俊也（大阪大学国際公共政策研究科科長・教授）

#### 研究会委員：

##### 【「サイバー空間」班】

土屋 大洋（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

川口 貴久（東京海上日動コンサルティング株式会社主任研究員）

##### 【「宇宙空間」班】

鈴木 一人（北海道大学大学院法学研究科教授）

福島 康仁（防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室教官）

##### 【「北極海」班】

池島 大策（早稲田大学国際教養学部教授）

金田 秀昭（日本国際問題研究所客員研究員）

#### 研究会委員兼幹事：

浅利 秀樹（日本国際問題研究所副所長兼主任研究員）

秋山 信将（一橋大学大学院法学研究科教授／当研究所客員研究員）

松本 明日香（日本国際問題研究所研究員）